

大切な公共交通を存続させるために

主な
取り組み

“KTR利用促進” とまちの活性化

新規 高齢者上限 200 円乗車』 社会実験 864 万円

65 歳以上の高齢者が、土・日・祝日に KTR を利用される際、利用 1 回につき上限 200 円で KTR 線内をご利用いただける社会実験を実施します。夏頃から 6 か月間の実施を予定しています。※市内の各駅窓口（有人駅）で往復切符を購入されることが条件となります。

対象

市内 65 歳以上のかた

KTR 土・日・祝日の乗車



KTR を往復 400 円
(片道上限 200 円) で利用できます

さらに…

プレミアム商品券を購入できます



市内の商店街で買い物

社会実験のねらい

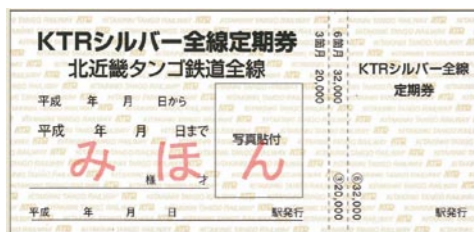
KTR 利用者の増 → KTR の存続
地元消費の増 → 地元経済の活性化

新規 KTR 利用促進通勤定期券 購入支援 130 万円

KTR の利用促進を図るため、新たに KTR 定期券を購入したかたが勤務している市内事業者に対し、購入費の 3 割を助成します。

高齢者運転免許証の自主返納支援 40 万円

マイカーから公共交通へと利用の転換を進めるため、70 歳以上の高齢者で自動車運転免許証を自主返納されたかたに、KTR の「シルバー全線定期券」（3 か月有効）を交付します。



新規 ～ KTR を存続させるために～ 「みんなで考える住民参加シンポジウム」の開催 12 万円

厳しい経営状況となっている KTR の実態を正しく理解し、利用促進に向けた取り組みにつなげていくため、経営状況の報告や市民などによるパネルディスカッションなど“市民参加型”のシンポジウムを開催します。（夏頃に開催予定）



北近畿タンゴ鉄道

北近畿タンゴ鉄道経営対策基金拠出金 8,500 万円

地域の公共交通の維持確保のため、北近畿タンゴ鉄道株式会社の経営に対して、関係自治体と協調して支援します。

市内駅舎等施設の管理 4,028 万円

鉄道を利用されるかたの利便性の向上を図り、鉄道の利用を促進するため、市内 7 つの駅（丹後大宮駅、峰山駅、網野駅、木津温泉駅、丹後神野駅、甲山駅、久美浜駅）の維持管理を行います。また、甲山駅を除く 6 つの駅で乗車券類の販売を行います。



峰山駅

合併特例措置の廃止・逡減などに向けた取り組み

主な
取り組み

持続可能な財政運営と 財政健全化

今年度で合併から 8 年目を迎え、「合併特例措置」が適用される期間もあと 4 年となりました。普通交付税については、平成 27 年度から平成 31 年度までの 5 年間で段階的に削減され、平成 32 年度からは京丹後市本来の交付額となります。（平成 32 年度の普通交付税は、現行制度が変わらないとするなら、平成 26 年度と比較すると約 26 億円の減少が見込まれます。）

そのため、合併特例措置が適用されているうちから歳出の抑制を図り、後年度に充当・活用できる基金を積み立てることで、普通交付税の削減期間を実質的に延長。「歳入の削減に伴う歳出の急激な減少の緩和」を図ります。

普通交付税の合併算定替

合併後の一定期間に限り、合併前と後の団体で算定した普通交付税の額を比較し、多い方が交付される特例措置です。本市の場合は、平成 16 年度から平成 26 年度までの間は、合併算定替額の全額が交付され、平成 27 年度から平成 31 年度の 5 年間で段階的に逡減。平成 32 年度からは、京丹後市本来の交付額となります。

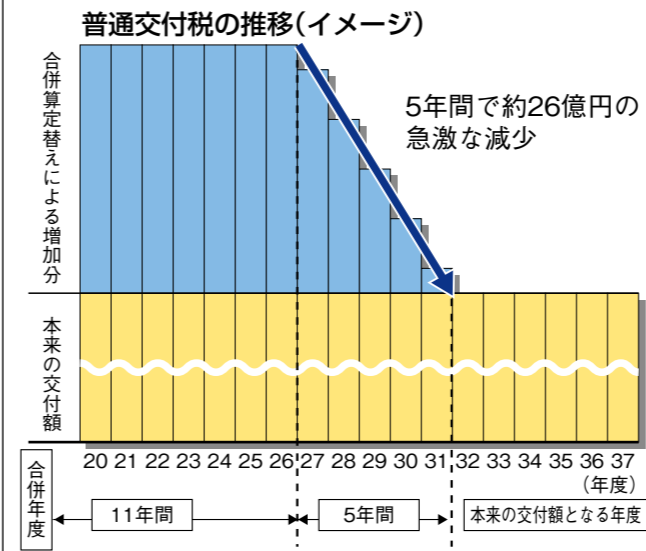
合併特例事業債

合併団体のみが発行できる地方債で、本市の場合は、平成 26 年度まで発行することができます。対象事業費のおおむね 95 分の市債を借り入れることができ、その元利償還金の 70 分が後年度の普通交付税に算入されます。

普通交付税合併算定替の逡減

平成 26 年度まで…合併前団体での算定合計額で交付
平成 27 年度～平成 31 年度…段階的に逡減
平成 32 年度以降…京丹後市本来の交付額
→平成 32 年度の交付額は平成 26 年度と比較すると約 26 億円の減少が見込まれます。

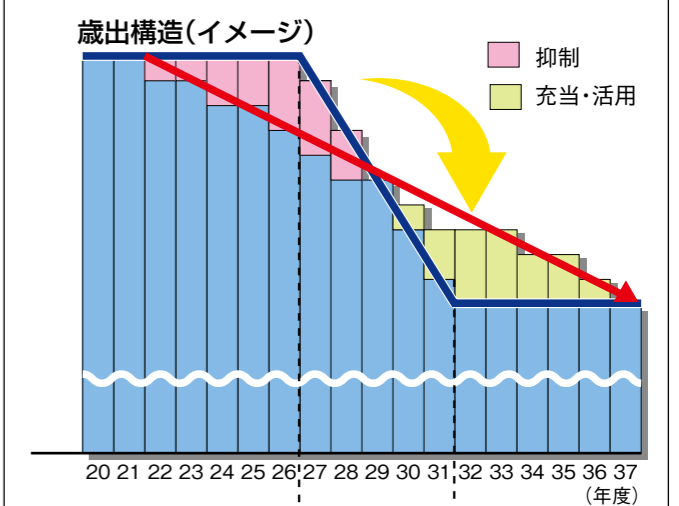
歳入の減少＝歳出の減少 → 行政サービスの急激な低下が懸念



※普通交付税は、人口などの増減により変動します。

早期歳出抑制による歳出の激変を緩和

合併特例措置逡減対策準備基金を後年度に充当・活用
平成 23 年度は 5 億円を積み立て
平成 23 年度末現在高 7 億 5,000 万円
普通交付税の逡減が始まる前から歳出を削減し、積み立てを開始。後年度の財源とし、「歳入の削減に伴う歳出の急激な減少の緩和」を図ります。



◆市議会において予算の一部修正が行われました。修正の内容は次のとおりです。

- 地域サポーター（5 参考）配置人数 <6 人を 2 人へ>
- 敬老会補助金単価 <1 人あたり 2,000 円を前年度と同額の 2,250 円へ>
- 観光の魅力づくり推進事業補助金（22 参考）<3 事業を 2 事業へ>